

大学IRコンソーシアム： 中間組織としての意義と役割

2013年8月7日

山田礼子

同志社大学

学習支援・教育開発センター長

高等教育政策の動向と新たな方向性

- 2012年中教審答申より→高等教育が質的転換が求められる
- 2013年 中教審の議論

認証評価の大きな転換

第2サイクルの認証評価における書く評価機関の取り組み

- ・自己点検・評価を通じて、人材養成目的や知識・技能体系等を明確にして、それが機能していることを確認すること
- ・第2サイクルの認証評価では、各認証評価機関は、学修の成果や大学の自主的・自立的な質保証を重視した評価に発展させている。

重要な転換点

学習成果の評価の重視 内部質保証システムの評価

求められる内部質保証とIR

- 第二サイクルに入った認証評価においては、「内部質保証」が重要な課題
- 内部質保証とIRは切り離せない関係



IR機能の充実が内部質保証の充実に

情報公表の重要性と認証評価

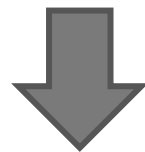
- 認証評価に際して、大学ポートレート(仮称)の活用の可能性の高まり
- 学習成果を重視した評価
 - インプット中心から、プロセス・アウトカムを重視した評価
 - その際に、
 - 大学ポートレートを活用
- 「大学ポートレート」等を用いて、積極的に情報公表に取り組む大学の評価を簡素化
- 私立大学においては、私立大学振興財団で構築するデータベースを活用するという計画

大学ポータルレート・私学データベースとIR

- 大学ポータルレート・私学データベースへのデータの提供および活用についてはIRが重要な要素となる
- そうしたデータ作成、また活用できる人材が不足
大学IRコンソーシアムでは、IR人材の育成をひとつの柱にしている
- IRの活用および運用、データベースについては日本の多くの大学で運用できる人材が不足

2012年中教審答申においての確認： 学士課程教育の改革サイクル

- ▶ 学生の学修成果の把握については、アセスメントテスト（学修成果の測定・把握のための調査）、学修行動調査、ルーブリック（学修評価の基準）の活用関係機関が、諸外国の例も参考にしつつ、学生の学修到達度を測る方法や学生の学修行動の調査方法等、我が国に適した評価手法について、大学支援法人、大学間の連携、学協会を含む大学団体等による速やかな研究・開発を推進する必要性



教学マネジメントを支援するツールとしての教学IRの機能

質を伴った学修時間の実質的な 増加・確保を始点とした好循環

- 学修時間の増加は準備と深い学びとの深い関係
- 全学的な教育マネジメントの改善
- 教育課程の体系化
- 組織的な教育の実施
- シラバスの充実



教育マネジメントをいかに機能させ、教育の質保証
あるいは教学ガバナンスの強化を実現するか

教育の質保証のために何をすべきか： 教学IRの進展

大学IR (Institutional Research)とは、大学運営や教育改革の効果を検証するために大学内のさまざまな情報を収集して数値化・可視化し、評価指標として管理し、その分析結果を教育・研究、学生支援、大学経営等に活用する活動

教学IRとは、そうしたIR活動を教育面に焦点化し、教育の質保証をしていくための支援ツール

国公立4大学IRネットワークの活動と特徴

- 設立主体も立地も規模等も異なる大学間の垣根を越えて共通の学生調査を実施
- 学生の学習行動、学習成果、教育の効果等に関する基礎データを蓄積し、分析
- 各大学内に散在している学生の教務データや入学関連データ、各大学の基本情報を収集・管理し情報を一元化するシステムの開発
- 個別の大学での教育効果の測定および連携大学間での「相互評価」を可能

自律的・自立性にもとづく質保証・教学ガバナンスシステムの構築

国公立8大学IRネットワークの活動

- 教学評価体制の充実
- アウトカム評価の確立
（目標の設定、カリキュラムへの展開、
成果チェック）
- グローバル化への対応（英語力の評価体制）
- 大学教育の職業的レリバンスの検証
（卒業生調査）

大学IRコンソーシアムの発足の過程

- 「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出
— 国公立4大学IRネットワーク」による4大学連携



- 国公立8大学IRネットワーク:「教学評価体制(IRネットワーク)による学士課程教育の質保証」

(平成24年度文部科学省大学間連携共同教育推進事業)
へ発展



2012年9月からIRコンソーシアムが発足

2013年7月現在15校が加盟

連携関係

8大学IR ネットワーク

- ・ 教学評価体制の充実
- ・ アウトカム評価の確立
- ・ 英語力の評価体制
- ・ 大学教育の職業的レリバンスの検証



大学IRコンソーシアム

- ・ 教学評価体制の基幹をなすIRネットワークシステムの運営
- ・ 情報の一元管理、個別の大学での教育効果の測定
- ・ 学生調査による連携大学間での「相互評価」の機能や機会の提供

大学間連携による教学IRの意味は？

- * 日本の大学の教学マネジメント・ガバナンスの問題は？
- * 教育のガバナンスの不在
- * 大学を動かすための外部からの仕掛け（支援や評価）の構築
- * 大学によるガバナンスの多様性



大学の個別性を考慮しつつ標準性を活用
することで大学間連携教学IRの仕組みの構築

キーワードは

大学による自律的、自律性の高い取り組みと連携体制

IR専門職に求められる資質とは？

- (Terenziniの三層＋私見)

主に私立大学に固有の人材＝職員の実力者

3

高等教育の文脈・自大学の文脈に沿った分析能力
大学内での人脈構築＋自大学文化に精通

2

問題対応・解決能力
歩留り、予算配分、施設設備計画、学費設定、認証評価
対応、教員評価、部門間交渉能力

採用・研修

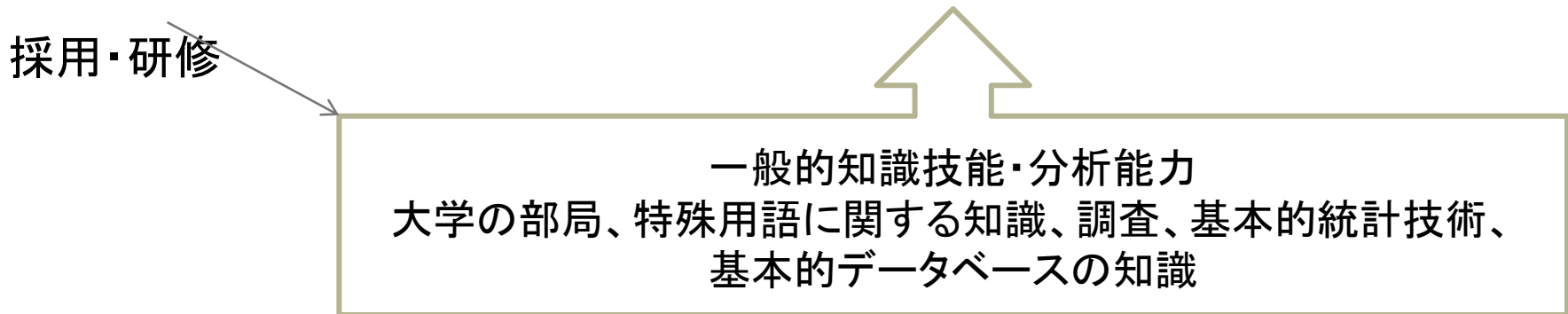
1

一般的知識技能・分析能力
大学の部局、特殊用語に関する知識、調査、基本的統計技術、
基本的データベースの知識

IR人材育成ワークショップの提供

- ・三層構造の1段階の人材のための養成ワークショップ
- ・大学固有の実力者は養成できない
自大学での育成を期待 しかし、基本は大学間連携で可能
- ・研究志向ではなく、機関のためのアイアラーになることを理解した人材を養成していかねばIRは広がらない

採用・研修



一般的知識技能・分析能力
大学の部局、特殊用語に関する知識、調査、基本的統計技術、
基本的データベースの知識

大学による自律的、自立性の 高い取り組みと連携体制の意義は？

- エビデンスベースに基づく現状評価文化の浸透が不可欠
—大学では難しい障壁を大学間で可視化された情報を共有し相互評価をすることで問題を認識、協力しながら、教育の改善へと結びつける
- 特徴： 相互性、自律性、自立性、大学間の信頼関係
- 中間支援組織としての機能及び役割
設置形態を越えての協働体制→世界で初めての活動

連携取組の新たな展開

- データが集積、それらをもとに議論ができる題材がそろおう
学生調査部会 → 課題の抽出 大学固有の問題 共通性
- 8大学プロジェクトとの連携
英語教育部会
学生調査結果の集積と分析から得られる知見を
大学教育への還元へとつなげるステップ
- 大学が増加することで、教育改善事例の把握と蓄積
それらを集めてGPの事例集積→ゆるやかな教学改善
コミュニティの形成

ご静聴ありがとうございました

質問は ryamada@mail.doshisha.ac.jp

までお願いいたします